

本テキストにおける Quick Response と Sight Translation の使い方

本テキストはシャドーイングを中心に音読練習を行い、「英語の基礎体力」を培うことを狙いとしています。したがって、学習者にはその練習をするための時間をできるだけ確保したいところです。また、シャドーイングの練習だけでリスニング力や復唱能力がつくわけではなく、語彙の練習や様々な音読練習に十分な時間をかけてはじめて、そうした力が徐々についてくることに留意すべきかと思われま

ここでは大学の90分授業で本テキストを使う場合の例を示します。1コマ90分間の授業で1ユニットの活動を行うことはできますが、ここでは余裕をみて90分の授業を2コマ分使って、1つのユニットを扱うことを考えてみます。

<1 コマ目>

- ・前時の復習（単語テストなど）
- ・Before You Listen（写真を見ながらトピックについて考える活動）
- ・Word Match（本文に登場する語彙の練習）
- ・ **Quick Response の活動**
- ・Gap Fill（英文を聞いてから内容をある程度理解する＋Check Your Understandingで内容を把握しているかどうか確認する＋Gap Fillで空欄を埋める、細かい点について理解を確認する）
- ・Shadowing Practiceで英語音声の特徴に注意しながら、少し遅いスピードでシャドーイングの練習を行う。CALL教室であれば音声を録音して再生し、取りこぼした点やうまく発音できなかった部分がなかったかどうか分析させる。
- ・ふり返り・まとめ（全体へのフィードバック等）

<2 コマ目>

- ・前時の復習（単語テストなど）
- ・本文のリスニング（復習）
- ・ **Sight Translation の活動**
- ・シャドーイングの練習（ここでは意味をしっかりと理解しながら復唱できるようにする）
- ・Summaryで本文のメッセージを別の表現で確認する。
- ・時間があればSummaryの音声を使ってシャドーイングの練習を行う。（CALL教室であれば自分のシャドーイングを録音・再生する）
- ・Discussion Topicsを使っての会話練習、あるいはライティング活動を行う。
- ・EXTRA - Real English in Actionを使っての応用練習
（まずは全体を聴かせ概略を理解させる。空欄つきの英文を見ながらシャドーイングに挑戦させるかディクテーションをさせる。答えと意味を確認したらシャドーイングの練習に進む。スピードが速すぎる場合にはゆっくりのバージョンを使用する。）
シャドーイングする時には、モデル音声のリズムやイントネーションだけでなく、練習として、話し方や息づかいまでそっくり真似させる。（なりきりシャドーイング）
- ・ふり返り・まとめ（全体へのフィードバック等）